



## 目を止め、目を注ぎ、 目を凝らし、目を覚ます

主宰塾では、各塾それぞれに通年課題を用意している。

会議塾では、ここ数年「年末大掃除チャレンジプロジェクト」を課し

日除けネットを張ったままにしてはいないか。見た目はホコリすら見あたらないからといって、放置したままであったとしたら、ネットを擦ってみるとよい。驚くほどホコリがこびりついている。こういうものだと見なしてしま

## 転期に立つ経営の視座④ 掃除の掃除

ているが、何から手をつけるべきかと悩む塾生を見かける。

毎日の掃除を見た目や見なす目で行い続け、これを当たり前にしてしまつと、365日分の1日である特別な大掃除では、目が行き届かなくなるからなのであろうか。

天窗の日差しが強すぎるからと

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

う目が養われると、思わぬ見落とし、見過ごし、見逃し、見忘れてしまったところが出てくるものだ。小事を疎かにしてはならないという戒めを「塵も積もれば山となる\*1」という。

大掃除は、日ごろ手が届かない所まで念入りに大がかりに行う掃

除のことで、特に年の瀬に行うことをいう。もともとは、正月の神様を迎える準備の一つとして神社などが神事として一年の煤払いを執り行うことが、今日の大掃除の原型であるともいわれている。

年末の大掃除に際しては、職員全員がいすの上に立って天井や照明器具などに目を留め、目を注ぎ、目を凝らし、目を覚ますことからはじめたい。あまりの酷さに目を側め、目を白黒させ、目を剥きたくなることもある。

「天井のホコリまで目配りする\*2」という姿勢を持ちたい。

## 見定める目、見極める目 見比べる目、見届ける目

毎日の掃除を通して、「テーブルは縁の裏まで拭く\*3」という見定める目、見入る目を養う心がけを見定める目、見極める目、見比べる目、見届ける目へと鍛えることで事業所の資質は向上する。

毎日の掃除、毎日ではないが定期的にを行う掃除の分類と項目を点検するとともに、「ありますか、ハタキ?\*4」と、掃除に必要な道具類の確認を促したい。

「満を持して」ハタキ、使っています!

「掃除の掃除」は、掃除の基本であることを徹底したい。大掃除では、工程表の作成(見直し)の有無、目標(目標の背景、理由を具体的に明記)や達成基準の設定、達成方法、達成期日などを事業所内で共有する意味もある。全員の役割と分担の見直しから始めたい。

また、建物内へのみ目を配りがちとなるものの、屋根の雨樋、台所、風呂場、トイレなどの排水口から排水管を通った水の流れや下水溝などにも目をやるのが肝心。配管周りを人間ドック並みに内視鏡検査をしなければいけないのではないかとの意識をもって、建物の維持管理に踏み込む。こうした自覚を持った管理者は、珍しい。開設時、新築だった建物の経年劣化は着実に進んでいるからである。

安易なほうに流れぬためにも、しよすがない、しかたがないなどと嘆くだけではなく、大掃除と共に一人ひとりが自らの心の掃除も忘れてはなるまい\*5。

\*1: 2015年5月号本稿参照 \*2: 『99の言葉の杖』(174~175頁参照) \*3: 『99の言葉の杖』(176~177頁参照) \*4: 2014年8月号本稿参照 \*5: 『99の言葉の杖』(132~133頁参照)